

鳥海山：鉾立ルート・祓川ルート山スキー報告

【山城】鳥海山

【日程と天気】2020年5月23日(土)晴れ時々曇り~24日(日)晴れ

【メンバー】CL 菊池・坂倉

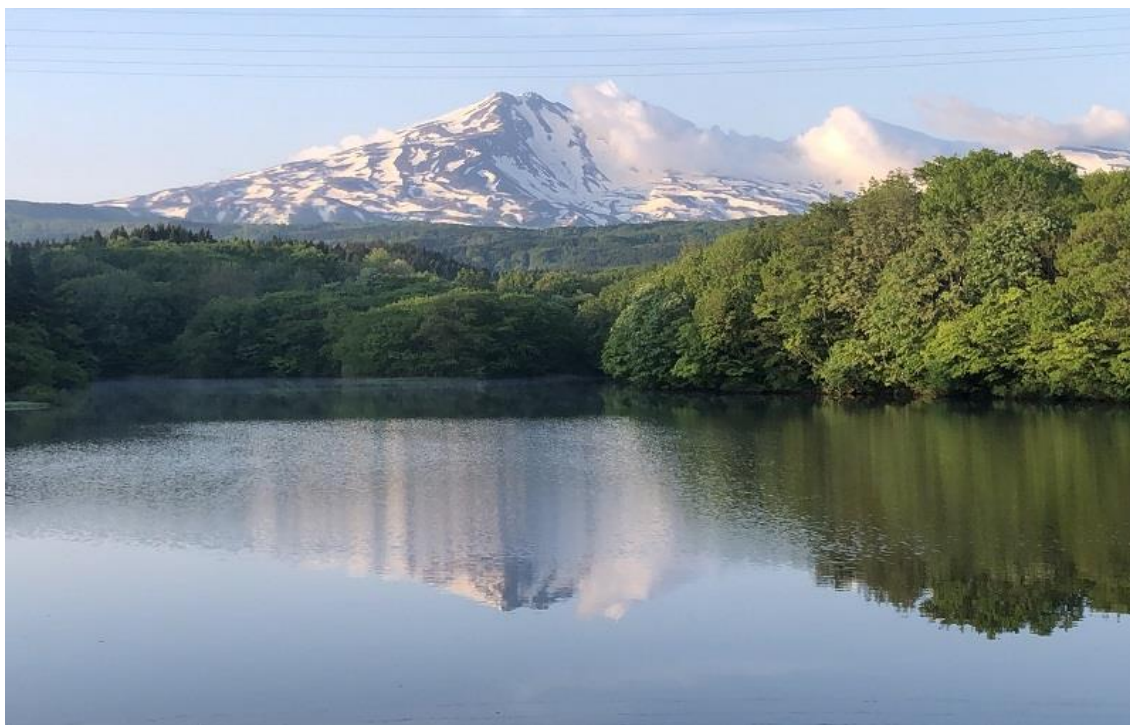
【行程】

23日(土)

千葉・菊池家発 23日 0時—坂倉君 PU0:30 —酒田みなと IC—酒田港見学—鳥海山ブルーライン入口 8:00—鉾立駐車場(1150m)8:55—登山道ルート(ツボ足)—1300m位からシール登高一11:35 御浜小屋(1700m)—北斜面標高差 200m 滑走—御浜小屋—往路を滑走—15:00 鉾立駐車場—鳥海温泉(遊樂里)入浴—道の駅「鳥海・ふらっと」奥の駐車場でテント泊 (道路の反対側のコンビニあり)

24日(日)

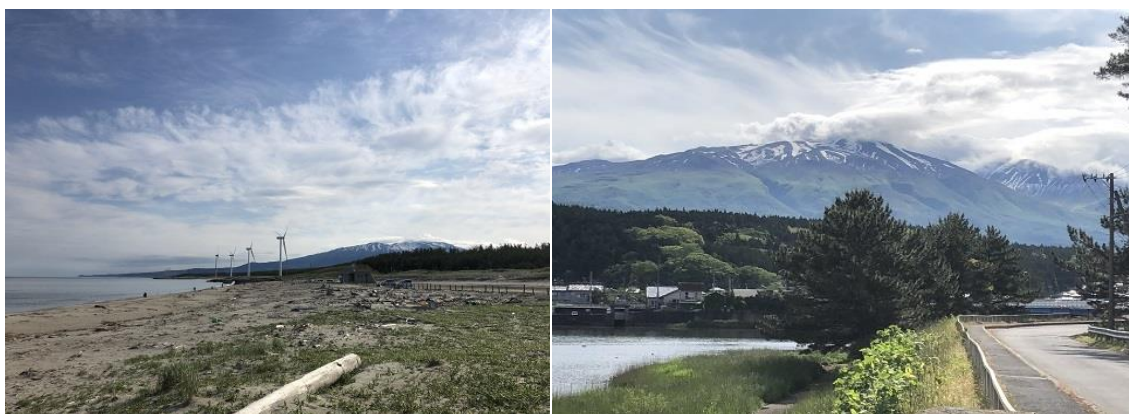
道の駅—祓川駐車場 1170m(竜ヶ原湿原)6:35—七つ釜避難小屋付近—七高山 (2229m) (坂倉君は新山 2236m 登頂) —往路—登山道ルート (竹竿に沿った) を滑走—駐車場—遊樂里入浴—帰葉



- ・鳥海山は過去に 4~5 回山スキーで訪れているが、いずれも CL に連れて来ていただいた山行であり、その奥深さと良さが今一つ実感できないままであった。残雪期の山スキーは主に上信越や北アルプス・富士山を中心にした計画が殆どであったが、高齢化に伴い遠方ではあるが、嫺やかな東北の山々の魅力に惹かれて行くようになっていた。今シーズンは

GWに大平山荘泊での山スキーを計画したが、コロナ禍で中止となり、来期以降への持越しのつもりでいたが、コロナが収束傾向になり、ブルーラインの開通とヤマレコに鳥海山BCの報告が出るようになると、前週の燧ヶ岳だけで今シーズンを終わらせるわけにはいかず、再び相棒との弥次喜多道中となった。

- ・ヤマレコでの報告で17:00~8:00まではブルーラインは閉鎖との情報が記載されていたため、時間的に余裕ができて、酒田港から見る風力発電の大きなプロペラの向こうに残雪の鳥海山を眺めテンションを上げた。ブルーラインに向かう途中、道の駅「鳥海」や鳥海温泉「遊樂里」を偵察した。



8時過ぎにブルーラインに入ったが、どうやら夜間も閉鎖してなかったようである。徐々に標高を上げるが残雪が少なくがっかり、果たして山スキーができるのであろうかと心配をしながら進んだ。大平山荘や吹浦登山口あたりからの入山は残雪が少なく無理である。日本海を真下に臨める鉾立駐車場（象潟口）からの入山となった。広い駐車場に車は少なく、登山者や山スキーもごくわずかであった。



- ・しばらくはツボ足で登山道を進みます。迫力の白糸の滝を見学し、右側の残雪と藪の斜面を観察し、滑走では何とか道路まで繋いでいけるのでは考えながら約1時間強でシール

登高が開始できた。



ガスで視界不良になるとルートが分かりにくいため GPS に登山道をセットして臨んだ。時々ガスで視界不良になるが順調に御浜小屋に到着。



- 上部や鳥海湖方面はガスで視界不良であり、鳥海湖への快適斜面の滑走は断念した。御浜小屋を境に北側はガスが掛かっておらず、快適な大斜面が広がっている。今回はこの斜面を暫く滑り、登り返すことにして、行動食休憩を取り滑走準備をした。残雪と緑の山肌のコントラストが素晴らしい稲倉山を眺めながらの滑走は極めて快適で

ある。写真や動画と撮影しながら標高差約 200m の雄叫び滑走を満喫した。



一気に今回の遠方への遠征が報われたような気分になり、ルンルン気分での登り返し、青空の広がった空は湧き雲の素晴らしいグレイトショットまで提供してくれた。

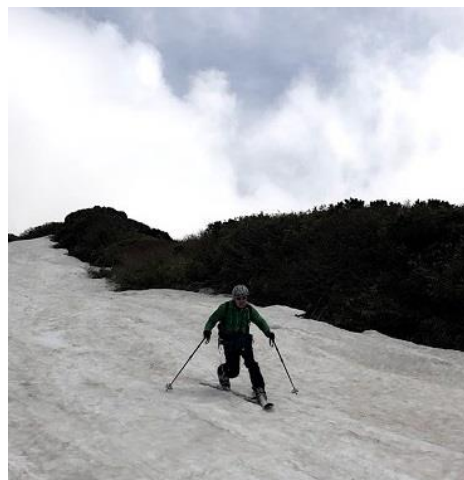
銚立への滑走前のまったり休憩、坂倉君の沸かしてくれたコーヒーをすすりながら、鳥海山の魅力に引き込まれる喜びを味わいました。



- ・休憩後、雪消エリアを強引に通過した後は、素晴らしい極上ザラメ、中斜面、緩斜面主体の広大な鳥海の山スキーの素晴らしさを満喫しながら、思い思いの滑走ルートを気持ち良くクルージングして行きます。



滑走のフィナーレは日本海を見ながらですが、うっかりツボ足登山道への入り口を通過してしまい少し登り返しのおまけがついてしまいました。



駐車場までのツボ足下山は、ゆったりと白糸の滝を眺めたり、残雪と新緑のまだらな鳥海山の山肌の向こうに日本海を眺めたりの贅沢な一時でした。道路脇には残雪と新緑のブナ林の手前を、大きくなった黄緑色のフキが鎮座していました。



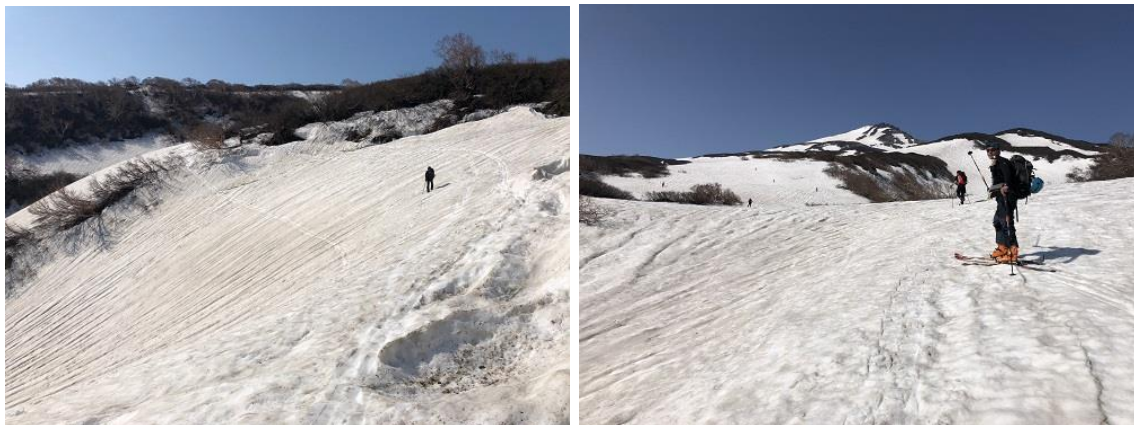
・2日目は絶好のツアー日和です。途中モルゲンロートに輝く鳥海山を撮影しながら祓川に向かいました。祓川駐車場まで1時間半ほどであるが、道を間違えてしまい少し時間ロスしたものの6:05には到着、県外からの車も多く、多くの山スキーヤーが先行していました。



残雪量はそこそこあるが、果たして繋がっているのか???

竜ヶ原湿原の木道を通過、先行トレースを辿り左周りルートで進みます。多くの山スキーヤーに交じてボーダーも見られます。

急斜面のトラバースなど微妙な地点の通過がありやや緊張したり、藪漕ぎも少しありました。



最後の急斜面の手前で休憩、行動食やミカン(クエン酸)を摂取。相棒に先行させ新山登頂を目指しましたが、小生はゆっくりペースで後を追います。クエン酸摂取の効果があったか、ゆっくりペースがよかったか？調子を崩さず七高山山頂に登頂できました。



- 山頂(稜線)には大勢の山スキーヤーが休憩しており、その中にはチーム福島に K さんがいらっしやり、しばしの談笑を交わしました。間もなく新山を往復した相棒が戻ってきて、記念撮影後いよいよお楽しみの滑走開始です。

緩急織り交ぜた広大な斜面、極上ザラメの快適な滑走感が続きます。竹竿で誘導された登山道ルートに沿って滑走して行きました。フィナーレに近くなり藪漕ぎがありましたが、順調に下山、龍が原湿原の右側を巻







き、芭蕉見学し駐車場まで滑走できました。

祓川ルートは18年ほど前に初めて経験して以来2回目、今回はCLとしてじっくり研究できました。後日ヤマレコの報告で同日祓川から入山したPが千蛇谷を滑走し七五三掛から稜線に上がり、七高山まで戻ってきて下山した記録を見ましたが、来年は我々も是非このルートで千蛇谷を滑走したいと考え、期待に胸を膨らませました。

- ・帰路は白雪川の橋を渡り、中島台の下を通過するルートを選択、滑走してきた鳥海山の雄姿やブナの奇異な「あがりこ」を撮影しながら象潟に向かい、前日に続いて遊楽里の温泉で汗を流し、満足の鳥海山山スキーのフィナーレとなりました。



20200523 鳥海山 鉾立から

距離	9.8km
記録時間	06:24:59
最低高度	1,149m
最高高度	1,703m
累計高度(+)	853m
累計高度(-)	851m
平均速度	1.5km/h
最高速度	30km/h
消費カロリー	2001kcal
座標精度	★★★★★
接続率	0.2%



20200524 鳥海山 袂川口

距離	13.6km
記録時間	07:51:35
最低高度	971m
最高高度	2,226m
累計高度(+)	1,211m
累計高度(-)	1,420m
平均速度	1.7km/h
最高速度	36km/h
消費カロリー	2650kcal
座標精度	★★★★★
接続率	2.9%